姉妹都市合同チーム　15回連続出場！

『第18回YOSAKOIソーラン祭り』が6月10日から5日間、札幌市で開催され、大勢の観客で賑わいました。

今年は、踊り子隊と訪問団総勢31人が参加し、姉妹都市積丹町と15年連続で合同チーム『ヤーレンソーラン積丹町&香美市』（※1）を結成し、昨年に引き続き『特別招待チーム』（※2）として参加しました。

一行は、12日に積丹町に着き、初の合同練習を行いました。13・14日の両日は、大通公園をはじめとする札幌市内25会場で繰り広げられた本祭に参加し、合同チームは6会場で、高知県の『よさこい鳴子踊り』と積丹町発祥の『民謡ソーラン節』を融合させた楽曲にのって、笑顔と掛け声で元気よく踊り、大きな拍手と声援をいただきました。

松井積丹町長は、「地域間交流がこれだけ続くのはなかなか難しい。香美市との交流はお金に替えられない」と、感慨深げでした。

（香美市姉妹都市友好都市交流推進協議会）

※1　香美市19人・積丹町38人の総勢57人の踊り子隊が参加。
※2　合同チームは平成18年度の参加をもって解散していましたが、同祭主催者より、「香美市と積丹町の合同チームは、祭りを通して生まれた唯一の姉妹都市交流であり、祭りの財産であると考えているので、ぜひとも参加してほしい」との強い要望から、装いを新たに昨年度チームが再結成され「特別招待チーム」として参加しています。

姉妹都市交流を通じてゴールイン！

今年3月に、姉妹都市交流を通じて知り合った植田和憲さん、里絵さんのお二人が結婚されました。お二人は平成18年にYOSAKOIソーラン祭りへ『ヤーレンソーラン積丹町&香美市』の踊り子として参加し、出会いました。今年も夫婦そろって合同チームに参加されており、「積丹町には共通の知人もおり、合同チームでの活動を通じて会えるのを毎年楽しみにしています。今では積丹町・北海道にかなり愛着がありますので、今後もいろいろな交流事業に関わる機会があればと思っています」と交流事業に対する思いを話してくれました。

香美市姉妹都市友好都市交流推進協議会（西山武会長）が主体となって、毎年行われている積丹町への訪問・交流事業（6月27～29日）が行われ、8人の訪問団が積丹町を訪れました。

香美市からの参加が今年で13年目となる『味覚祭り』は、とれたてのウニ・エビ・ホタテなどが入った直径1.5mの大鍋で作る浜鍋など、積丹町ならではの味覚を存分に楽しめ、夜間は納涼祭や打上花火も行われる盛大なお祭りです。

訪問団は、会場で香美市の地場産品である土佐打刃物や、柚子の関連商品を販売したほか、高知県の味覚を代表する『鰹のたたき』を販売し、客足が途絶えないほどの盛況ぶりでした。

（香美市姉妹都市友好都市交流推進協議会）

香美市の地場産品、北の大地へ

ゆずぼうや
©やなせたかし

ラーゴ高校生短期留学！

6月18日、姉妹都市アメリカ合衆国フロリダ州ラーゴ市から、山田高校へ短期留学に訪れたラーゴ高校生ら11人がJR土佐山田駅に到着し、ホストファミリーらに迎えられました。

留学生は、19日から26日まで山田高校の授業に参加し、市内の染め工場や、龍河洞などを見学し、27日に高知龍馬空港から関係者に見送られ帰路に着きました。

山田高校とラーゴ高校は、平成4年に姉妹校となり、互いに訪問し合って交流を深めており、今回で9回目の来校となります。写真は音楽の授業を受けているところで、この日はボディパーカッションの授業が行われ、山田高校生と一緒に練習し、最初は「できない」と言っていた留学生も、授業の最後には上手く演奏でき、達成感を共有していました。

休憩時間に留学生に「一番好きな日本食は？」と聞くと「大阪お好み焼き！」と、意外な答えが返ってきました。

山田高校ALTニーナさんからのお手紙

香美市のみなさまへ
私は交換留学で香美市を訪れたとき、ここを離れたくないと思いました。そして、ここに必ず帰ってこなければいけないとも思いました。
ALTとしての3年間は、とても短く感じました。離れるのはとても悲しいです。皆さんにはとても優しくしていただき、また、たくさん助けていただきました。きっと香美市は、いつまでも私の故郷と思える場所となるでしょう。
ニーナ

ニーナ・マーランさん（ラーゴ市出身）
両校の姉妹校交流を通じ、ALTになることを決心。平成18年から今年8月まで山田高校のALTを務められました。